

令和4年度 発達障害者（児）支援事業 実績報告等

* 大阪大学大学院子どものこころの分子統御機構研究センターに一部委託

1. 「さかっこひろば相談室」

【事業概要】発達について心配や不安のある保護者が、個別の発達相談を行える場。専門家によるスクリーニングと「サポートの道案内（情報提供・紹介）」を実施する場。

対象	堺市在住の0～12歳の児童
申込	保護者が申込（電話予約）
広報	広報紙・ホームページ・ポスター・チラシによる案内
実施方法	医師、心理士、発達支援コーディネーター等のスタッフがさかっこひろばにて実施。心理相談や、希望に応じて問診・検査・診察を実施し、必要に応じ療育や医療機関を紹介。
実績	別紙資料のとおり。

2. 「4・5歳児発達相談」

【事業概要】発達障害の傾向や特性の見られる4歳児（年中児）を対象に、就学を見据えた支援の方向性や助言を行う発達相談の場。

対象	堺市在住で年度内に5歳になる幼児(年中児)		
申込	保護者が申込（電話予約）		
広報	こども園・幼稚園等を通じて対象年齢の家庭へチラシ配布(4月・11月) 広報紙・ホームページ・ポスター・チラシによる案内		
実施方法	医師、心理士、発達支援コーディネーター等のスタッフが、相談会場を巡回。 対象児について問診・診察・行動観察を行い、必要に応じ療育や医療機関を紹介。		
実施回数	年84回	実施場所等	各区保健センター：3～4枠 さかっこひろば：2枠
実績	別紙資料のとおり。		

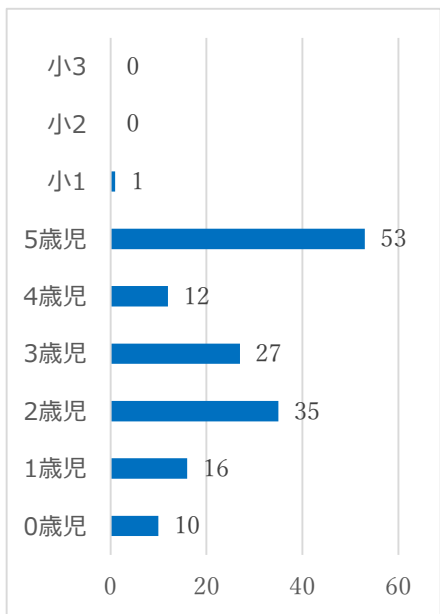
3. 「家族のための学習会」（ペアレントトレーニング/養育者勉強会）

【事業概要】全4回のプログラムで構成され、子どもの行動観察や対応への工夫について学び、家庭での観察をグループで持ち寄り、子どもの行動への適切な対応を一緒に考えていく勉強会。

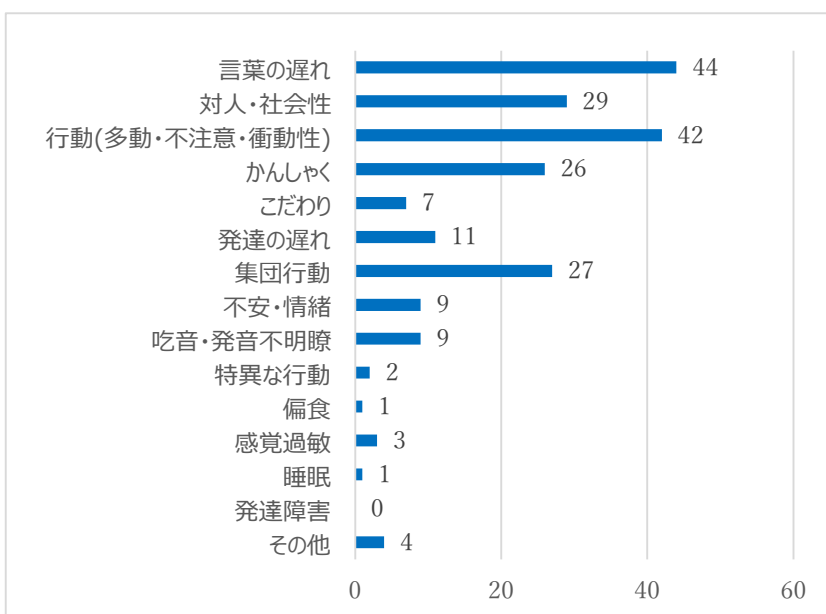
対象	4・5歳児発達相談、さかっこひろばの来談者のうち、対話ができる児童の保護者（託児あり）		
申込	保護者が申込（電話予約）		
実施内容	①オリエンテーション／行動を見てみよう ② ほめ方を考えてみよう ③伝え方を考えてみよう ④ 環境の工夫とふりかえり		
実施回数	4回を2か月程度で5クール実施	フォローアップの会（毎年3月に実施）	
実績	別紙資料のとおり。		

1. 「さかっこひろば相談室」実績報告

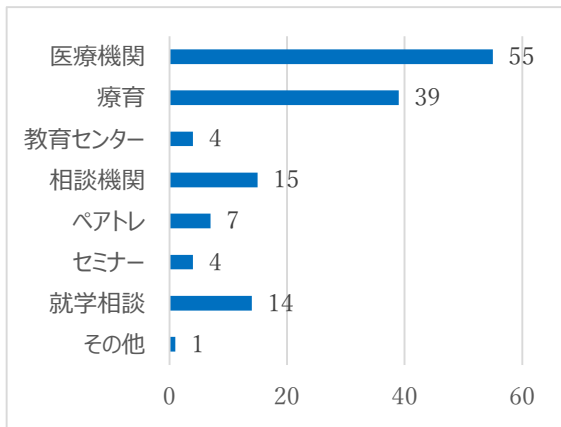
●相談の年齢層



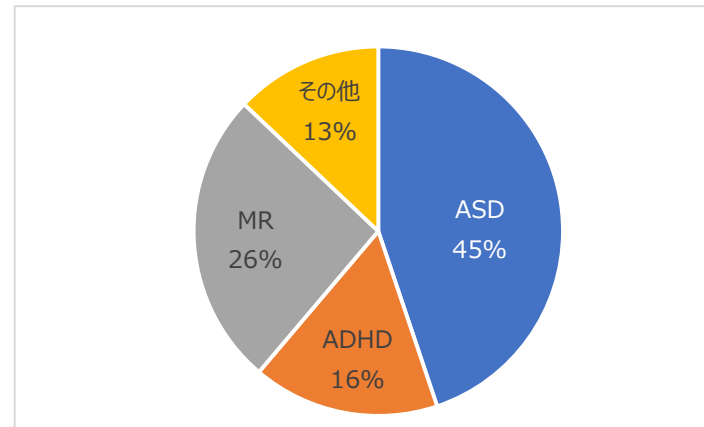
●相談の内容



●診察後の紹介先 (診察希望者のみ)



●暫定診断 (いずれも重複含む)



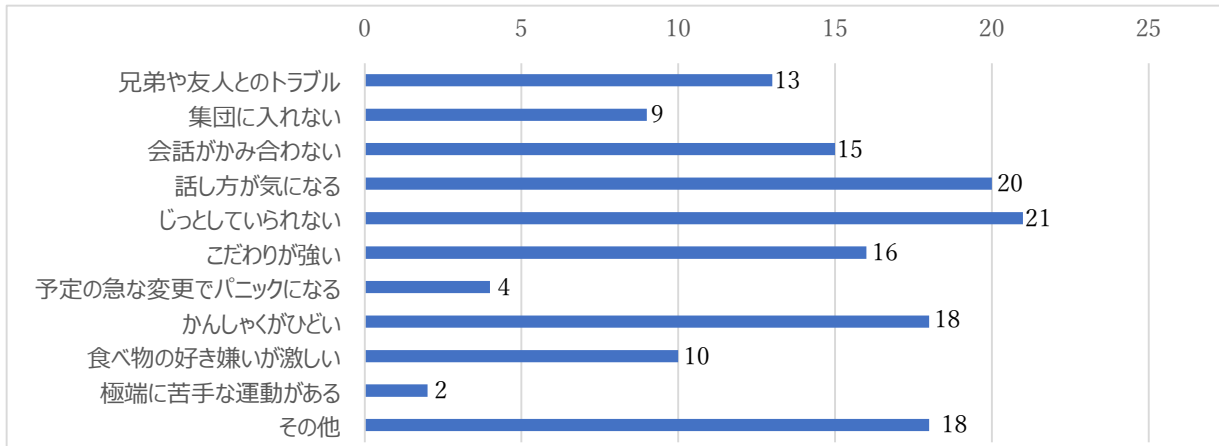
【令和4年度の実績報告と分析】

- 相談の年齢層について、就学直前の5歳児が一番多く見られた。次に、2歳児が多く、就園等を見据えた不安が相談に繋がっていると考えられる。
- 4歳児(年中)については4・5歳児発達相談を案内しているが、令和4年度の4・5歳児発達相談の申込数が例年より早く予約が埋まったため、受け入れできなかった児童については、さかっこひろばで相談を行った。
- 相談の内容として、言葉の遅れに続き、多動、不注意など行動面の不安による相談が高い傾向がある。
- 暫定診断として、ASDの傾向のある児童が多く見られ、次に発達遅滞、ADHDの特性が多く見られた。
- その他の暫定診断としては、LD、協調運動障害、家庭環境の要因などがあつた。

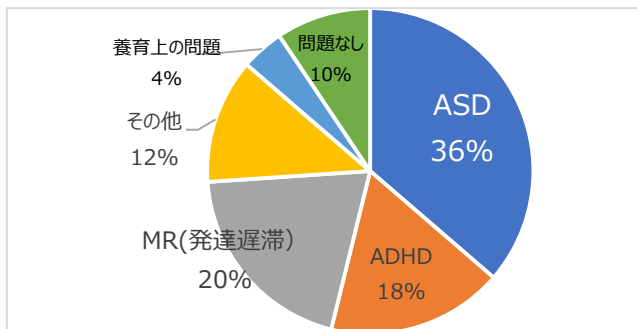
2. 「4・5歳児発達相談」実績・アンケート報告

※保護者回収率・・・47%（95名／201名）

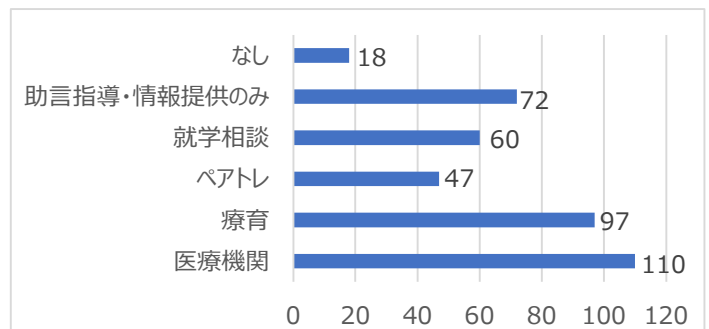
●相談の内容（申込のきっかけ）



●暫定診断（いずれも重複を含む）



●相談後の紹介先



●相談を受けてよかったと思う割合 = 96%

●相談後の保護者や家族に意識の変化があったと思う割合 = 94%

●振り返りシートの満足度 = 96%

●振り返りシートの活用（他機関への提供）の割合 = 85%

【相談内容】

- その他の主訴としては、体の使い方、発音、コミュニケーション、切り替えの困難さ、環境変化への適応、排泄、他者からの勧め、兄弟が発達障害だった、園への行き渋りなどが挙げられた。

【暫定診断】

- 暫定診断では、ASDが一番多く、次に発達遅滞、その次にADHDが多く見られた。
- 「その他」の診断として、吃音・構音の問題・場面緘黙・協調運動障害・ADD・不安障害等があった。
- 中には養育上の問題や、問題なしと判断されたケースが1.5割程度あった。

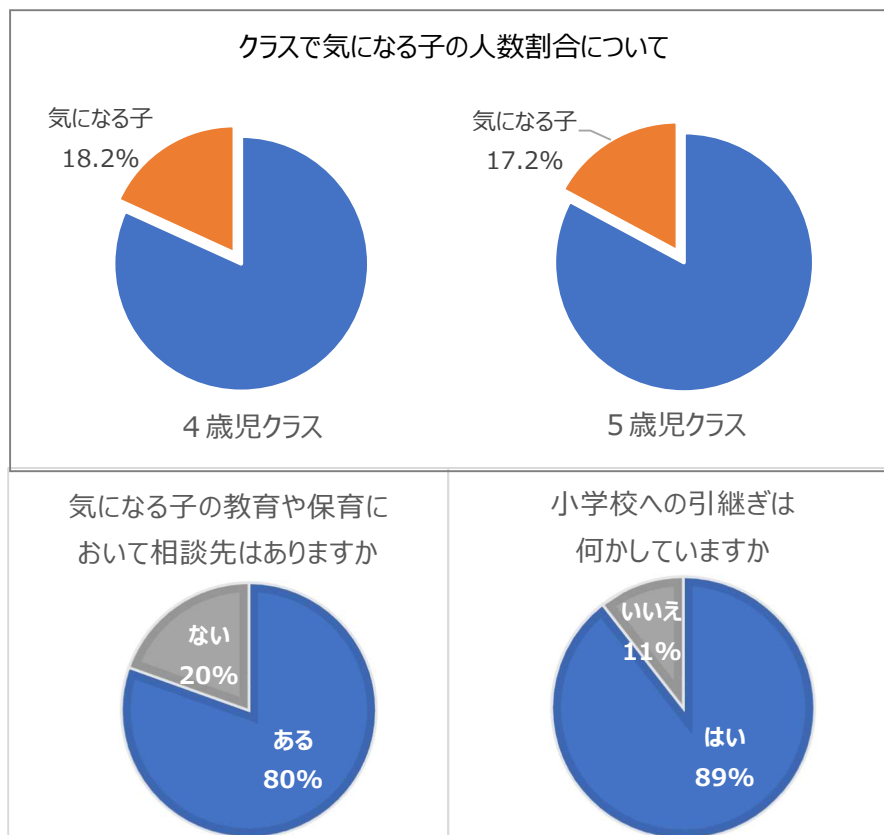
【その他】

- 4・5歳児発達相談の満足度として9割以上と高い満足度を得ているが、残りの数パーセントの意見としては「大人とは話もできるが、兄弟や子ども同士ではうまくいかず、不安が残る。」「もっと詳しい診断がつかうと思っていた。療育につながるまでの流れなど教えてもらえたらよかった。」「発達検査をしてもらえるとよかった」などがあつた。
- 振り返りシートについても満足度は高いが、その他の意見として「文字の羅列で読みにくい。」「届くのに2か月半はとも遅い。内容がいいだけにもったいない。」「SNSで調べればわかることも書いてあるので先に知っている親も多いのでは。」という意見があつた。
- 振り返りシートの活用先としては、通園先が8割以上であつた。また、療育機関、病院なども挙げられた。
- 活用をしない方の理由としては、「園の先生が忙しいイメージがあり、負担を掛けたくない。」「家族に必要ないと言われた。」「機会があれば渡したい」などが挙げられた。

● 4・5歳児発達相談を受けた子どもの所属園へのアンケートにおいて、発達面が“気になる子”の様子についての回答

※回収率・・・36%（重複園あり。無記入含まず。）

※気になる子・・・トラブルを起こしやすい・集団に入れない・会話がかみ合わない・じっとしてられない・こだわることが多い・癩癩がひどい・パニックを起こす・好き嫌いが激しい・極端に苦手な運動がある等『4・5歳児発達相談』の対象になるかと思われる児童。



【気になる子の人数割合について】

- 気になる子の割合について、全体を通して4歳児が18.2%、5歳児が17.2%と2割弱は気になる子がいるという回答結果であった。
- また、園からの意見には「4・5歳児発達相談が保護者にもようやく根付いてきたが、殺到してしまうと本当に必要な方に届かないのではと懸念し、悩んでいます」といった意見があった。

【相談先の有無について】

- 気になる子がいる場合の相談先があると回答した園は8割であった。
- あると回答した8割の園の相談先として、巡回相談員（特別支援保育）、4・5歳児発達相談、児童発達支援センター、園内の心理士やカウンセラーなどが挙げられた。

【小学校への引継ぎについて】

- 小学校への引継ぎは9割近くの園が行っていると回答した。
- 引継ぎ方法として、電話での引継ぎ、小学校の先生による園への訪問、指導要録の提供、交流会、就学相談による申し送りなどが挙げられた。

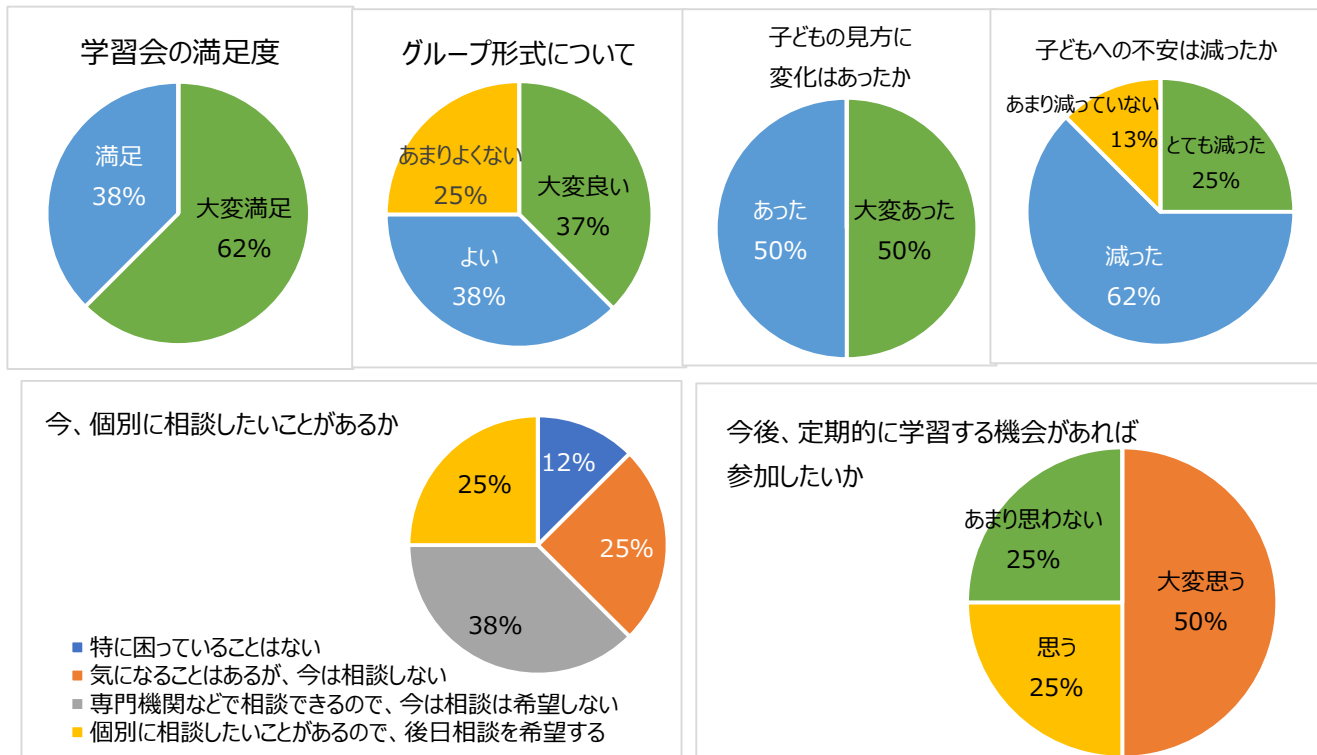
【その他】

- 振り返りシートを保護者から見せてもらったと答えた割合は77%であり、「参考になった」と答えた割合は97%であった。その他意見として「記載していたことはすべてやりつくしているため参考にならなかった。もっと違う関わり方が知りたかった。」との意見があった。また、「並行通園を勧められて通いたしたが、通所の翌日は園で荒れてしまう。」という変化を感じている園があった。

3. 「家族のための学習会」(ペアレントトレーニング/養育者勉強会)

●令和4年度『家族のための学習会』(第1回～第5回)の終了後アンケート結果

※参加者回収率・・・67% (8名/12名)



【令和4年度の実績と分析】

- 令和4年度は1クールの実施につき、上限4名の参加となった。(※新型コロナウイルスの影響により定員減。)
- 学習会の満足度については、全回答者から満足という回答を得たが、グループ形式での開催については「セミナー形式がよかった」という意見もあった。
- 学習会に参加してから、子どもの見方に変化があったかという質問について、全員が「変化があった」と回答し、「関わり方にも変化があったか」、「子どもの行動を理解するきっかけになったか」という質問についても全員が「あった」と回答した。
- 子どもへの不安は減ったかという項目については、「あまり減ってない」と答えた方が1名あった。
- ペアレントトレーニング後の今後について、今個別に相談したいかという質問については、今は相談を必要としないという回答が75%であった。
- 令和4年度は1家族1名ずつの参加としたため、配偶者への共有がなかなか難しいとの意見があった。令和5年度は両親参加を可能とし、最大10名での参加で実施している。

【その他】

- ペアレントトレーニングに参加し、変化を感じている保護者は多く、75%の保護者には困り感に対する一定の解消がみられる。
- 実施方法はグループ形式をとっており、ワークの実施や個々に対するフィードバックを実施しているため、1クールにつき、参加できる人数を増やすことが難しく、参加可能人数が全相談者に比べ、少ない状況となっている。